

2019年度 傾斜的研究費（全学分）  
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援

【研究代表者所属】：人文科学研究科 社会行動専攻 社会福祉学分野

【研究代表者氏名】：阿部 彩

【研究代表者氏名フリガナ】：アベ アヤ

【研究代表者職】：教授／センター長

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・ 東京都立大学オープンユニバーシティ、青木春人、事務長
- ・ 東京都立大学子ども・若者貧困研究センター、川口遼、特任助教
- ・ 財団法人特別区協議会、有馬慶子、事業部事業推進課長

【研究課題名】：特別区における子どもの貧困対策の推進に関する研究

【研究実績の概要（200字程度で記入。図，グラフ等の使用も可。）】

- ・ 表1の通り、「貧困研究のフロンティア定例学術会議」を全9回開催した。のべ参加者数は410人に上り、そのうち特別区協議会の研修として参加した特別区職員は47名となる。また、これとは別に、一般参加者として参加した官公庁職員ものべ67名いる。なお、第21回（2月28日）ならびに第22回（公開シンポジウムを兼ねる）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、2020年度に延期した。

表1 子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会開催実績

回	日	講師	テーマ	参加人数	うち特別区 職員の研修 参加	うちその他の 官公庁 職員
第12回	2019年4月16日(火)	藤原 辰史(京都大学 人文科学研究所 准教 授)	給食の歴史: 貧困の観点から	43	5	6
第13回	2019年5月27日(月)	酒井 厚(首都大学東京 准教授)	家庭の生活困難度と子どもの内在化型問題行動: 子どもの仲間関係と自尊感情によるプロセスモデ ルの検討	50	4	7
第14回	2019年8月25日(火)	北 明美(福井県立大学 教授)	子どもの貧困と「社会手当」の有効性	29	0	7
第15回	2019年8月2日(金)	木下 光生(奈良大学 教授)	貧困史からみた日本の近代と現代	38	7	6
第16回	2019年9月27日(金)	松村 智史(首都大学東 京 博士研究員)	子どもの貧困対策における「学習支援によるケア」: 理論、政策、実証分析から	63	4	12
第17回	2019年10月23日(水)	内藤朋絵(子ども・若者 貧困研究センター RA)	小1の壁にみる母親のワークライフコンフリクト	30	4	5
第18回	2019年11月7日(木)	末富 芳(日本大学 教 授)	子どもの貧困対策法改正の学術的インパクト: 当事者としての子ども・若者の意見表明と最善の 利益をめぐって	58	0	10
第19回	2019年12月17日(火)	脇田 彩(首都大学東京 助教)	女性間の階層格差と未婚化: その現状と展望	40	12	4
第20回	2020年1月22日(水)	阿部 彩(首都大学東京 教授)	大人になってからの親子関係: 貧困層は本当に 親とも疎遠なのか?	59	11	10
第24回	2020年2月28日(火)	田中理絵(山口大学 准 教授)	家族問題の輻輳としての児童虐待: 支援の課題			
第22回 (公開シンポ ジウム)	2020年3月17日(火)		児童虐待への文理融合アプローチ: 世帯の貧困 おやこの支援に着目して			

### 【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

表1に示した通り、特別区協議会による研修としてのべ47名の特別区職員が「貧困研究のフロンティア定例学術会議」に参加した。歴史学（第12回、第15回）、社会心理学（第13回）、社会政策学（第14回、第16回、第20回）、経済学（第17回）、教育学（第18回）、社会学（第19回）という多様な学問分野の専門家が、最新の貧困研究の成果を特別区職員に伝えるとともに、特別区職員側からの疑問に答えることで、研究者コミュニティと行政現場のギャップを埋めることができた。

### 【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

特別区協議会の研修の一環として参加した特別区職員以外にも、多くの官公庁職員の参加者を得ることができた（のべ67名）。また、研究者の他、NPO運営者などの参加も得ることができた。これら子どもの貧困に関する政策立案や現場での支援に携わる人々と、子どもの貧困に関する最新の研究成果を共有することで、より良い政策ならびに支援のあり方について検討することができた。

### 【外部研究費等への応募状況】

- ・ 公益財団法人日本生命財団「児童・少年の健全育成助成（研究助成）」（研究課題「貧困対策としての子ども食堂の調査研究：調査による施策への貢献」）

### 【科学研究費補助金や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・ 科研費基盤研究B（17H02606）「「貧困学」のフロンティアを構築する研究」
- ・ JST RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学」（JPMJRX18B2）「子どもの貧困対策のための自治体調査オープンデータ化手法の研究」

### 【出版したことによる波及効果】

2019年度は「貧困研究のフロンティア定例学術会議」開催を通じた研究者と行政職員のネットワーキングを主要な課題としており、書籍等の出版は行わなかった。しかしながら、2020年度から2021年度にかけて「「貧困学」のフロンティアを構築する研究」「子どもの貧困対策のための自治体調査オープンデータ化手法の研究」の研究成果と合わせた書籍の出版を検討している。